

梅雨のころの道端で見つけたガクアジサイです。中央には小さな両性花が密集し、その周囲を八重咲きの装飾花が取り囲んでいます。淡い青色の花色は、土壌中のアルミニウムと酸性土壌の影響によって生まれるアジサイらしい色合いで、しっとりとした季節の空気によく調和しています。装飾花が風に浮かぶように配置されている姿は、まるで青い蝶が群れ飛んでいるかのような軽やかさを感じさせます。

この株で特に目を引くのは、装飾花のがく片に散りばめられた赤紫色の斑点です。一見すると斑入り（ふいり）品種のようにも見えますが、模様は不規則で、一般的な覆輪や絞り模様とは異なる印象を受けます。アジサイでは時に色素の局所的な変化や生理的な要因によって、このような斑点が現れることがあります。また、品種固有の特徴や枝変わりによる可能性も考えられ、一つとして同じ模様がない点も興味深いところです。

自然界では完全に均一なものは少なく、こうした小さな変化こそが植物観察の面白さでもあります。同じ花房を遠くから眺めれば爽やかな青いアジサイですが、近づいてみると一枚一枚のがく片に異なる表情があり、思いがけない発見があります。雨の季節を彩る身近な花でありながら、その姿をじっくり見つめることで、植物の多様性や不思議さを改めて感じさせてくれる一株でした。

(2026年6月中旬／東京都北区)

